

令和元年度 東京都立小笠原高等学校 学校運営連絡協議会 実施報告書

1 組織

(1) 都立小笠原高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)

(2) 事務局の構成 副校長＝事務局長 教務部員 2名 計3名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任 計6名

(4) 協議委員の構成

小笠原村立小笠原中学校長、小笠原村立小笠原小学校長、小笠原村社会福祉協議会会長、小笠原村民生児童委員、小笠原商工会代表、本校1学年保護者代表、本校2学年保護者代表、本校3学年保護者代表、本校母島保護者代表 計9名

2 平成31年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和元年6月12日(水) 内部委員5名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和元年11月25日(月) 内部委員6名、協議委員5名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和2年3月9日(月) 内部委員6名、協議委員0名

1年間の教育活動に関する報告、学校評価の分析と考察、協議

協議委員からの教育活動に対する意見は、受けられず。

次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和元年6月12日(水) 内部委員3名、協議委員2名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和元年11月19日(火) 内部委員3名、協議委員2名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和2年2月28日(金) 内部委員4名、協議委員2名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(原案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象： 45人	回収： 44人	回収率： 98%
・12月 保護者全員	対象： 45人	回収： 21人	回収率： 47%
・12月 地域・住民	対象： 50人	回収： 42人	回収率： 84%
・12月 教職員	対象： 20人	回収： 20人	回収率： 100%
・12月 地域小中学校教職員	対象： 64人	回収： 43人	回収率： 67%
・12月 地域中学生	対象： 55人	回収： 55人	回収率： 100%

(3) 主な評価項目

・学校運営、広報活動、学習指導、生活指導、進路指導、学校行事・部活動、健康・安全、地域との連携、施設・設備、を評価項目として設定した。

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・生徒(96%)、保護者(95%)から「本校へ入学して良かった」という回答が得られた。
- ・生徒(94%)、保護者(100%)から「習熟度別授業、土曜講習、朝学習等による学力向上」について高い評価を得られたが、教職員は85%と低く、取り組みや参加数に満足感が低い。
- ・「大学進学希望者への支援」に関しては、保護者の肯定的な意見が100%であった。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・小学校保護者から、「高校生がアルバイトばかりして可哀そう」という意見があったが、小笠原では高校生が地域に貢献している実情があり、働き手として期待もされている。お金を稼いでいるだけでなく、社会経験を積んでいると考える。また、毎日でなく、船の入港日が中心であり、部活動への影響はない。部活動が活発でないという意見は、アルバイトとは関係ないのではない。
- ・学校の教育活動等が周知されておらず、情報の出し方が課題ではないか。村の防災無線等の様々な手段・工夫をしてPRや知らしめていくことが必要である。
- ・母島の生徒が少人数での寮生活であるため、寂しい思いをさせない工夫や気晴らしができるような生活を考える必要がある。父島生徒と母島生徒の壁を作らないような寮生活の工夫が必要。
- ・地域方々が「生徒一人ひとりに応じた進路指導を行っている」と肯定的な意見が29%と低く、情報発信の工夫の必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本校の教育活動に対して好意的に感じている地域の方々や保護者が多いが、学校行事やお知らせが等の情報発信が生徒や村広報だけでは周知できていないことが分かった。

- ・母島生徒のための「ぎんねむ寮」の活用について、「個別意見・考え」があることが分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・協議委員を含め地域の方々、海洋教育の充実や島外からの生徒・交換留学生の受け入れを望んでいる方々もいて、村や都との意見交換を、これまで以上に必要であることが分かった。

- ・地域の方々には本校の教育活動への協力に関して肯定的であり、今後も継続して海洋教育その他の教育活動に地域の人材を活用することで連携を推進する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・PTA と連携して、父島・母島保護者への情報提供の機会を増やし、保護者からの学校経営への意見やニーズを把握する。

- ・学校評価アンケートの意見から、生徒のアルバイトと部活動の在り方について、生徒の活動を確保し満足感が得られるように相談し、工夫をして取り組む。

- ・島しょ高校生サミットが今年度は中止となってしまったので、次年度以降の開催方法を検討する。また、リーダーシップを発揮できる人材を育成するため、遠隔情報機器（TV 電話）を活用して、島しょの都立高校7校と情報交換を図る。

(2) 学習指導

- ・基礎学力の向上定着に向け、行事を整理し質の向上を図ることで授業の確保を行いつともに。授業による調べ学習等を活発に行う。また、大学受験に対応した幅の広い学習指導を継続する。

(3) 生活指導

- ・「規律ある生活習慣の指導」を継続して行い、保護者・家庭との連携強化の下、全校で取り組む。

(4) 進路指導

- ・生徒の進路目標の達成を、個に応じた指導により向上への努力を全うできる自立心を育成する。

(5) 地域との連携について

- ・引き続き、宿泊防災訓練・村民防災訓練などの安全・防災教育や兄島野外活動などの自然保護活動、小中高連合運動会等の行事において地域の方々とは協力し理解を得ながら行っていく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	2	2				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、PTAの協力の他の方策を検討していく。
- ・兄弟（姉妹）で在籍している家庭は、保護者アンケートの配布数を世帯数に合わせる。